



# 新年のご挨拶

徳島県知事 飯 泉 嘉 門

明けましておめでとうございます。

社団法人徳島県宅地建物取引業協会の皆様には、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

出口会長をはじめ、貴協会の皆様におかれましては、日頃より、良質な住宅・宅地の供給にご尽力いただくとともに、本県の住宅・建築行政はもとより、県政各般にわたり格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

また、「百年に一度の経済危機」真っ只中に発生した、千年に一度とも言われる「東日本大震災」に際しては、県が「QOL（生活の質の向上）」に着目した徳島ならではの避難受け入れプログラムを展開する中、被災した方々に対して、物件仲介手数料や敷金・礼金を無料にて民間賃貸住宅をご紹介いただき、改めて深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げる次第であります。

昨年は、「東日本大震災」をはじめ、相次ぐ台風やゲリラ豪雨などの災害により、あらためて、自然の猛威を実感した年でありました。また、震災に伴う「福島第一原子力発電所事故」により、「食の安全・安心」をはじめ放射能汚染への懸念が強まる一方、「限りあるエネルギー」への意識が高まり、全国で省エネの推進、自然エネルギーの導入促進が声高に叫ばれました。

本県では、「関西広域連合」の一員として、「カウンターパート方式」による効果的な被災地支援を展開する一方、「東海・東南海・南海」三連動地震に備え、全国に先駆けて、「被害想定」やハード・ソフト両面の「減災対策」を検討する「地震津波減災対策検討委員会」を設置し、3つの時間軸に基づく、延べ300項目にわたる対策案の検討を進めるとともに、昨年12月21日には、新たな想定津波高（暫定値）と浸水予測を独自に試算、公表いたしました。

さらに、本県の提案で、全国初の「地域ブロック間による新たな相互応援体制」を中四国間で構築したほか、「とくしまブランド農畜水産物」に対

して独自の放射能検査を実施するとともに、太陽光・風力・小水力などの「自然エネルギー適地マップ」の作成や、節電効果の高い「LED」の「攻めの販売戦略」の展開といった、日本を先導する、徳島ならではの新たな未来を切り拓く施策を実践して参りました。

さて、今年の干支は「壬辰（みずのえ・たつ）」。「壬」は「妊」に通じ、陰から陽に転じて新たに万物が生じ始めることを表し、「辰」は内にあったものが外に出て活発に動くことを意味します。そこで、壬辰の年は「新時代の幕開けに向けて、従来の社会の仕組みを根本から変える端緒が切られる、つまり、未来への命運を決める年」とされております。

まさに「新しい日本の幕開け」であり、徳島こそが確かな羅針盤となるため、一層加速する「地方の時代」にスピード感を持って対応していきます。また、今春の「とくしまマラソン2012第5回記念大会」は、参加者を1万人に拡大し、新たなランドマーク「東環状大橋（仮称）」を活用するなど、進化するマラソンとして魅力を増していくとともに、秋の「第27回国民文化祭・とくしま2012」では、本県が育ててきた文化力を大きく開花させ、「地域の活力と魅力」を創造する徳島ならではの「新しい国民文化祭」を展開して参ります。

本年は、徳島の持つ類い稀な潜在力をこれまで以上に具現化させ、若者をはじめ県民の皆様が「夢と希望」を持って「幸せを実感できる社会」を実現する「新たな挑戦！」に全力を傾注して参りますので、貴協会の皆様におかれましても、住生活のより良い環境づくりを通して、「安全・安心」が実感できる徳島の実現に向け、更なるご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、「徳島県宅地建物取引業協会」の今後のますますのご発展と、本年が皆様にとって実り多き年となりますことを心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。